

平成26年3月10日号 (第135回)

# 阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

今年の桜の開花は、概ね平年並みと予想されています。  
関東地方は、やや遅い見込みのようですが。



今回の阿伎留通信は、「**総合内科**」について  
総合内科 國吉 孝医師よりお話をさせていただきます。

総合内科医と聞くと、皆さんはどんな医師を想像されるでしょうか？

「内科各科の隔てなく、外来と入院両方の患者を総合的に診ることができる医師」といえば実に率直な解答。しかし、それだけでは具体的なイメージは湧きにくいのが実情でしょう。NHK で毎週木曜日または金曜日 22 時に放映されていた『総合診療医ドクターG』に出てくる「ドクターG」と呼ばれる指導医が一番わかりやすい例として挙げられるでしょうか。

米国では、general internal Medicine (GIM: 総合内科) と称し、例えば循環器科、血液内科等と同様に一つの専門科とされています。また、かなり幅の広い内科的疾患を対象にしていますが、単科専門と明らかな一線を引いています。具体的には、市中肺炎は総合内科で診るが、BOOP (器質化肺炎) は呼吸器専門医に任せる、といった場合などです。

わが国でも、厚生労働省「専門医の在り方に関する検討会 報告書」で、“総合診療専門医”が第19番目の基本領域の専門医として加えられました。その報告書では、総合診療専門医について、

総合的な診療能力を有する医師（以下「総合診療医」という。）の必要性については、

- ① 特定の臓器や疾患に限定することなく幅広い視野で患者を診る医師が必要であること
- ② 複数の疾患等の問題を抱える患者にとっては、複数の従来領域別専門医による診療よりも総合的な診療能力を有する医師による、診療の方が適切な場合もあること
- ③ 地域では、慢性疾患や心理社会的な問題に継続的なケアを必要としている患者が多いこと
- ④ 高齢化に伴い、特定の臓器や疾患を超えた多様な問題を抱える患者が今後も増えること  
などの視点が挙げられる

総合診療医には、日常的に頻度が高く、幅広い領域の疾病と傷害等について、わが国の医療提供体制の中で、適切な初期対応と必要に応じた継続医療を全人的に提供することが求められる。

また、日本内科学会が「総合内科専門医」の認定を行っており、ホームページに総合内科専門医に対する基本的な考え方を掲載しています。

## 「総合内科専門医の医師像」

今日の国民が求める医師像である

- 【1】 患者の身になって対応できる豊かな人間性
- 【2】 患者の問題解決に貢献する能力
- 【3】 世界基準に適う医学知識・技術
- 【4】 独創的な研究能力を備える内科医

として、以下具体的医療活動が述べられていますが、長くなるのでリンクを張っておきます。

[http://www.naika.or.jp/nintei/seido/ishizo\\_01.html](http://www.naika.or.jp/nintei/seido/ishizo_01.html)

このように学会が描いている医師像はいわゆるスーパードクターと呼べるもので、相当なハイスペックを要求されます。前述の「ドクターG」に出てくる著名な先生方がまさにその例に相当するのでしょう。

ところで、当院ではまだ総合内科外来という形では発足していませんが、その現状の中で行える医療としては、一言で言うと、成人に対して内科的プライマリーケア(primary care)を行なうこと、ではないでしょうか。それではプライマリーケアとはなにかということになります。ここで再び引用ですが、「Primary Care Medicine 3rd Ed.」では、

プライマリーケアとは調和のとれた包括的な個人のケアであり、初めて接する場合にも、継続的な場合にも共に有用である。

これはいくつかの作業から成り立っている。

- 1) 医学的診断と治療
- 2) 心理・精神的評価と管理
- 3) 病気のあらゆるステージにある、様々な背景を有する個人の支援
- 4) 病気の診断、治療、予防、予後などの情報を十分に伝えること
- 5) 早期発見、教育、生活習慣の変更、予防的治療を通して、病気や障害発症を予防すること
- 6) そして健康を維持すること

であり、これらがプライマリーケアを行う医師の仕事である。

近年の医療の高度化とともに、高度先端医療を担う医療機関ほど、医療の細分化が進んでおり、臓器別に非常に専門的な知識と技術を持つ医師が診療を行っていますが、その反面いろいろな病態を持つ患者さんの初期治療や一般にありふれた疾患の治療などには、必ずしも十分に対応しきれない面もあったかと思います。そうした中で、患者さんの訴え一つ一つに耳を傾け、さらに、患者さんの身体面だけではなく心理・社会面（ライフスタイルや家族構成など）を含めて、「人」を統合的に診ていこうとする全人的医療を実践することが総合内科の役割と考えます。



阿伎留通信については、第1回から最新号まで、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)